

【小 論 文】

問題

別紙の資料（以下、「本資料」という。）を読んで、次の問1～4に全て答えなさい。なお、解答は、解答用紙の所定の範囲に収まるように作成しなさい。

- 1 本資料の第4頁の下線部（A）の「<技術的合理性>と技術プログラムという強力な考え方」は、その文脈においては、どのような考え方を指していますか。下記の（ア）～（オ）の中から最も適切と思われるものを1つ選んで記号で答えなさい。
 - （ア） クライアントの問題はプロフェッショナルによるサービスによってではなく、科学技術の進歩それ自体によっておのずと解決されるという考え方
 - （イ） クライアントの問題は既存の専門知識によってではなく、プロフェッショナル個人の反覆的な試行錯誤によって最終的に解決されるという考え方
 - （ウ） クライアントの問題はプロフェッショナルが高度な体系的専門知識を道具的に適用することによって合理的に解決されるという考え方
 - （エ） クライアントもみずから専門知識を学ぶことによってプロフェッショナルによる支配に対抗できるよう努力するべきであるという考え方
 - （オ） 弱い立場のクライアントを守るためには市民の側に立つ新しいプロフェッショナル集団の組織化が必要であるという考え方

- 2 本資料の第7頁の空欄（B）の部分（2か所）に共通に入る語として最も適切と思われるものを下記の（ア）～（オ）の中から1つ選んで記号で答えなさい。
 - （ア） クライアント
 - （イ） 一般人
 - （ウ） 裁判官
 - （エ） プロフェッショナルの仲間
 - （オ） プロフェッショナルが所属する組織の上司

- 3 本資料によれば、「伝統的な契約」と「省察的な契約」の場合において、プロフェッショナルは、それぞれどのような者としてとらえられていますか。またプロフェッショナルの仕事上の満足は、それぞれ何から得られるのでしょうか。資料に沿って答えなさい。

4 (1) 本資料を読んで、あなたにとって、「理想の法律家像」とはどのようなものと考えますか。簡潔に答えなさい。

(2) あなたは、その「理想の法律家像」に向かって成長していくために、今後、特にどのようなことに気をつけておきたいと思いますか。本資料の中で提唱されていることに触れながら、あなたの考えを述べなさい。

※別紙資料として、ドナルド・A・ショーン著／柳沢昌一・三輪健二監訳『省察的实践とは何かープロフェッショナルの行為と思考』（鳳書房、2007年（原著は1983年発行））抜粋を筆記試験時に配付しました。（なお、出題にあたって一部改変しています。）